

第4回肝臓病教室

このたび、第4回肝臓病教室が平成22年9月3日に開催されました。今回も38名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは「C型慢性肝炎」です。昨年の肝臓病教室でも「C型慢性肝炎」を取り上げましたが、ご好評いただきましたので、今回さらに内容を充実して開催いたしました。

まずは、角田医師から「治療について～最新情報と当院での取り組み～」と題して講演がなされました。

C型肝炎のインターフェロン治療について1.治療経験なし(初回治療例) 2.一度ウイルスは消えたが再熱した人(再燃例) 3.全くウイルスが消えない人(無効例)に分けて説明されました。また、来年秋から保険適応見込みとされる「テラプレビル」の最新情報もおり交ぜながら話されました。

続いて、廣瀬技師から「C型肝炎に対する血液浄化療法の経験」について講演がなされました。

「血液浄化療法」は、県内において当院を含む数施設しか行われていない最新治療です。治療に対する完治率は70%であること、副作用は軽微であり、治療への影響は大きなものではないとの説明がなされました。

続いて、北田薬剤師から「C型肝炎の薬物療法について～副作用と支持療法～」について講演がなされました。

副作用の初期、中期の症状やそれに応じた支持療法が紹介されました。初期症状のインフルエンザ様症状(発熱、頭痛、全身倦怠感、関節痛)では解熱剤を併用することもあります。また、治療期間によくみられる副作用として貧血の症状(めまい、頭痛、疲れやすい、耳鳴り)があり、症状を緩和する療法として漢方(十全大補湯)での改善が挙げられ、それにより治療に積極的に取り組めるとされました。



続いて、藤本栄養士から「鉄制限食のポイント」について講演がなされました。

インターフェロン治療中は、貧血の症状が現れたとしても鉄分をとりすぎないように注意することが大切であると話されました。例えば、夕食の献立の中で主菜(肉+魚料理又は肉料理+大量の大豆料理)を2品以上摂取する場合は注意が必要とされます。

続いて、満田看護師から「C型肝炎 感染予防と日常生活の注意点」について講演がなされました。

C型肝炎治療中は、日常では激しい運動はさげ、なるべく安静に過ごすこと。C型肝炎ウイルスは血液を介して感染するので、カミソリ、歯ブラシ、タオル、爪切り、ピアスなどの共有は避けること。また、インターフェロン治療中は原則アルコール禁止であることを話されました。さらに、喫煙は血管が細くなり血液が肝臓に十分に流れず、肝機能が低下するため禁煙が望ましいことが話されました。



今は治せる病気「C型慢性肝炎」ですが、放置すれば肝臓癌に進行する可能性が高まります。当院では、C型肝炎治療のための積極的な啓蒙活動を行い、C型慢性肝炎を撲滅していきたいと思っております。また、消化器肝臓病センターでは、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。今後の予定につきましては院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。